

J A 自己改革推進レポートについて

令和2年10月27日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取いなばの取り組み

① 営農部がこども食堂へマスク寄贈

営農部は9月4日、鳥取市幸町の中央人権文化センターを訪れ、「こども食堂」へマスク600枚を贈呈した。

同センターの山根代表は「寄贈していただき、本当にありがたい。梨のロゴがかわいくて、子どもたちもきっと喜んでくれる。食堂の感染拡大防止に努めたい。」と感謝を述べた。

寄贈したマスクは全農とつとりが製作したもので、旬の「梨」のロゴが入っており、J A 鳥取いなばの植田常務は、「オリジナリティーがあってかわいらしいデザイン。子どもたちに是非つけてもらいたい。」と話した。



② 岩美南小学校の児童が「二十世紀」梨収穫体験

岩美支店は9月14日、食農教育の一環として岩美町立岩美南小学校3年生の児童16人を対象に同校敷地内の梨園で「二十世紀」梨の収穫体験を実施した。J A 担当職員や、連携教育の一環として県立岩美高校の生徒9人も参加し、一緒に収穫した。

児童は高校生と協力しながらコンテナ3個分の「二十世紀」梨を収穫し、「思った以上に大きくなっていてすごい。みんなで栽培した梨を収穫できて嬉しかった。早く食べたい」と笑顔で話した。



③ 星空舞の収穫がスタート

管内で、新ブランド米「星空舞」の収穫が始まった。今年度、生産者670人が約40%で「星空舞」を栽培している。

鳥取市の農事組合法人・良田生産組合でも「星空舞」の刈り取り作業を実施。同組合の小谷さんは「収穫を迎えほっとしている。鳥取県を代表するブランド米を目指し、生産者の所得増大につなげたい」と期待を寄せた。



④ 「輝太郎」初選果

9月30日、八頭町の広域果実選果場で早生甘柿「輝太郎」の初選果を行った。10月中旬にかけて出荷ピークを迎え、JA鳥取いなばでは“いなば柿シリーズ”としてリレー出荷に取り組む。

選果場には、濃いオレンジ色に色付いた「輝太郎」がコンテナ37ケース分持ち込まれた。今年は長梅雨や8月から9月の猛暑などの影響から生育状況が心配されたが、上々の仕上がりとなった。同JAでは、関東・関西・山陽の市場と直売で21,000ケース（3キロ箱）の出荷を計画し、3,600万円の販売を目指す。



(2) JA鳥取中央の取り組み

① 営農支援隊がスイカの収穫と出荷を支援 & スイカの販売額 33 億円達成！

体調不良により収穫が困難になった農家のもとへ営農支援隊が訪れ、スイカの収穫・出荷作業を支援した。8月6日には支援隊員2人に加え、JA職員7人、農家の有志6人、行政関係者14人が参加。JAと行政が連携して支援を行うことで適期を逃さずに全量出荷することを目指した。農家に対する支援活動は今回が4回目。

また、JA鳥取中央は9月16日に鳥取市の県庁を訪れ、令和2年産のスイカの販売高が3年連続で30億円を突破し、さらに19年ぶりに33億円を達成したことを平井鳥取県知事に報告した。

需要が供給を上回ったことで量販店の売り場面積が確保されたこともあり、初販売から単価を下げることがなく高単価で推移し、安定した販売となった。さらに、人気動画クリエイターを起用し、ツイッターなどのSNS上で鳥取スイカの魅力を発信することで新たな消費者層の購買に繋がったことも要因の一つと考えられる。

栗原組合長は「コロナ禍で対面販売活動ができないなど心配もあったが、終始高単価で推移する良い結果となった。今後もいろいろな販売戦略を組み合わせ、さらに生産を拡大し鳥取スイカを日本全国に届けたい」と話した。



② 献上梨選果・引渡式を開催！

天皇皇后両陛下、上皇皇后両陛下、秋篠宮皇嗣同妃両陛下へ献上する梨の選果・引渡式を9月9日に倉吉市で開いた。

昭和39年から県内産地を順番に梨を献上しており、倉吉梨生産部では平成21年9月11日以来11年ぶりの4回目となる。

今回は福永さん、河本さん、馬野さんの3名が育てた「二十世紀」梨を献上する。「二十世紀」梨を300玉から84玉に厳選し、糖度10.5度以上、3L以上でキズが無く色や形が揃ったものをJA役員や来賓らが選果した。

梨を献上した馬野さんは「引渡式が無事に終わってホッと安心した。曇雨天で生育は心配したが、8月からは好天が続いたので味がのった梨に仕上がった」と話した。



③ 組合長が女性担い手と意見交換！（役員による担い手対話運動）

栗原組合長は、管内の担い手農家へ出向く活動に取り組んでいる。9月17日には女性担い手を訪問し、女性の視点から見た生産現場の課題や要望を直接聞き取った。

琴浦町で主にブロッコリーを生産する手嶋さん、娘の山崎さんからは「収穫時の労力負担や人出不足のサポート体制、ドローンでの散布可能な農薬の登録促進」など女性担い手が抱える労力軽減を中心とした問題解決案が挙げられた。栗原組合長は「即戦力として農家の需要に対応できる体制の強化と県などへ農薬登録要請をし、スマート農業の取り組みを更に推進する」と伝えた。

同じくブロッコリー生産者の小前智栄さんと千英さんは今後、加工品の製造に向けて輸送コストの低減や保存に適している新技術の「フリーズドライへの取り組み」などを要望した。栗原組合長は「ブロッコリーの生産振興に向けた取り組みの一環として努めたい」と話した。

JA鳥取中央は今後も定期的に訪問活動をしていく方針である。



(3) JA鳥取西部の取り組み

① 地元の味を子どもたちに伝える「とっとり県民の日献立」

9月11日、米子市の「とっとり県民の日(9/12)献立」の取り組みに協力し、米子市内の小・中・特別支援学校など35校に特産の大山ブロッコリー100キロを給食用食材として無償提供した。

給食には、「大山こむぎコッペパン」や大山ブロッコリーを使った「星取県サラダ」、白ネギを使った「白ネギの星空スープ」、「二十世紀」梨などが並んだ。



② 地元の特産学ぶ。ブロッコリー食育授業・地元特産の栽培に挑戦

大山町立大山小学校で9月7日、地元の農産物や農業などを学ぶ総合学習授業の一環として児童を対象に特産ブロッコリーの食育授業を行った。

種まきから収穫・集荷・スーパーなどに並ぶまでの流れ、大山ブロッコリーが取得している地域団体商標やG I（地理的表示）登録などについて分かりやすく解説した。

また、9月14日には地元生産者やJ A鳥取西部担当者らが協力し、同校の児童に大山ブロッコリーの生育や栽培方法などを説明し、定植作業を指導した。

児童は「苗を植える深さの加減が難しかったが、上手くできた。収穫が楽しみ。さらさらしたブロッコリーになってほしい」と目を輝かせていた。



③ ストック運営委員会 新たな需要あり

J A鳥取西部ストック部会は米子市のJ A本所で9月10日、役員会を開いた。

会議では令和2年産の集荷日や運賃について協議・承認し、9月下旬の初出荷を見込み、10月5日に出荷会議を開くことを決定した。さらに、「コロナ禍による葬儀の密葬化やブライダル、イベントの中止や規模縮小で需要の低下が懸念されているが、小売専門店、販売店での新たな需要が伸びている」と市場からの情報を伝えた。



④ 秋冬どりブロッコリー販促PR強化へ

秋冬ブロッコリーのシーズンを迎えるJ A鳥取西部は9月28日、大山ブロッコリー井戸端(サポート)会議担当者会とブロッコリー部会運営委員会を開いた。

担当者会では、新しい販促資材の作成や青年部へのスキルアップ資材配布などの取り組みを報告した。大山ブロッコリーブランドのさらなるPR強化を目指す。



(4) JA全農とっりの取り組み

① 令和2年産「星空舞」出発式を開催

鳥取県が開発し平成30年にデビューした「星空舞」が本格販売開始から2年目を迎え、9月29日に「星空舞」出発式を開催した。

出発式では、「星空舞」ブランド化推進協議会の栗原会長より「厳しい気象条件の中でも順調に生育し、収穫を迎えることができた。生産者にも消費者にも喜ばれるお米として、ブランド定着に取り組む」と意気込みが語られた。

鳥取県内では生産量が年々拡大している「星空舞」だが、今後は新米の出荷に合わせてCMの放送や新米キャンペーンを予定しており、全国へ向けて消費拡大宣伝を展開し、「星空舞」のブランド定着へ向けた取り組みを進めていく。



② みんなで鳥取県内飲食店を応援しようキャンペーンを実施

現在のコロナ禍の影響を大きく受けている鳥取県内の飲食業界を応援しようと(株)JAいなば燃料センター・(株)JA中央サービス・JA全農とっりの3者は、JAグループLPガス『クミアイプロパン』供給先である鳥取県内の飲食店・旅館等の応援キャンペーンを実施している。

キャンペーンでは、期間中(令和2年11月27日必着)に対象店舗を利用したレシートを3枚以上集めて応募すると、抽選で30名に「鳥取和牛オレイン55」または「鳥取県産梨 王秋」(各5,000円相当)をプレゼントする。



(5) JA鳥取信連の取り組み

ちょきんぎょカップ少年サッカー大会を開催

9月19日(土)、20日(日)の両日“JAバンク鳥取ちょきんぎょカップ”第23回鳥取県少年サッカー大会が東郷運動公園多目的広場にて開催され、16チームが参加した。

この大会は、「たくさん子ども達にサッカーの楽しさを知ってもらい、多くの人々と交流を深め、夢を持ち続け心豊かな人間となってくれること」を目的とした小学4年生以下の大会である。

JAバンク鳥取では、この大会を通じて、JAバンク鳥取のPR・地域貢献、更には子育て世代の保護者との取引拡大を目的として、この大会を共催し、今年で12年目となる。

大会には、JAの金融担当部長の出席を得て、記念品・参加賞の贈呈のほか、管轄チームの応援を行った。JAバンク鳥取は、地域と共に発展してきた組織として、地域貢献を使命と考え、地域に根差した活動を今後もサポートしていく。



(6) JA共済連鳥取の取り組み

迅速な「ペーパーレス手続き」「キャッシュレス手続き」で満足を。

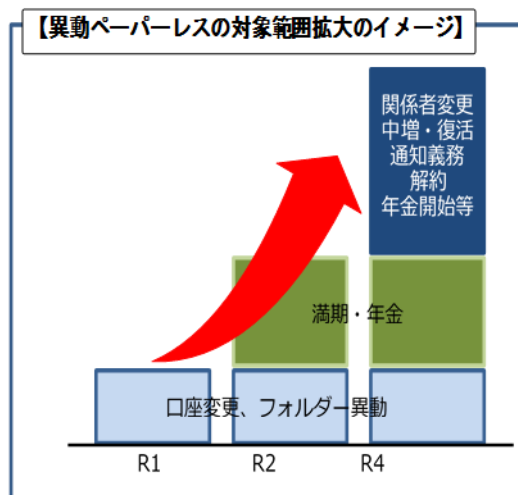
JA共済では、JAと連合会による一体的事業運営を深化させ、組合員・利用者との関係を強化し、強固な事業基盤の確保を目指した取り組みを行っている。

その中の一つである「事務負荷軽減の追及」として、タブレット端末機（携帯用端末）を活用したペーパーレス手続きや決済専用機器を活用したキャッシュレス手続きを平成28年4月から導入し、順次業務範囲の拡大を図り、迅速で確実な手続きをすすめることで契約者の利便性向上と契約者対応力の強化を図っている。

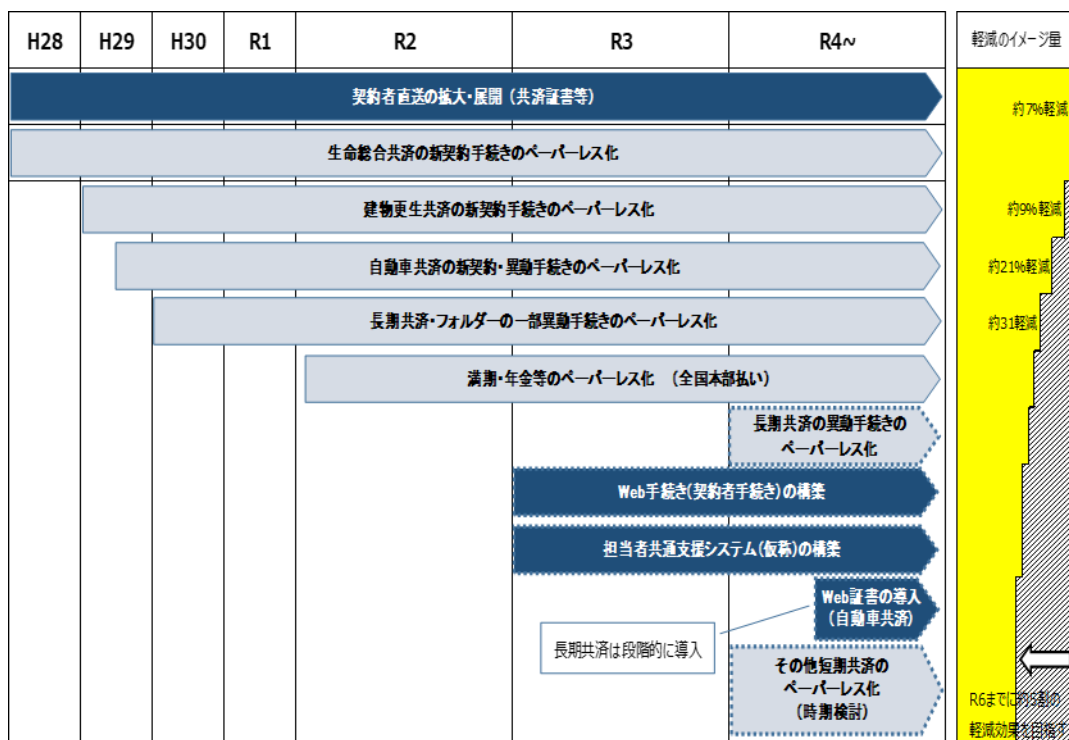
ペーパーレス手続きは、現在では長期共済（生命・建更）、短期共済（自動車）とほとんどの共済種類で新契約の引受手続きが行え、異動の手続きについては、一部の範囲が限定されているが、令和4年4月からは大幅に範囲が拡大される予定である。

決済専用機器を活用したキャッシュレス手続きでは、「平成30年12月系統内口座での利用可能」、「平成31年4月長期共済新契約のデビットカード払いの導入」、「令和2年12月自動車共済新契約のデビットカード払いの追加」と範囲が拡大されてきた。今後は、QRコード決済の導入などキャッシュレス手続きの範囲を拡大し、契約者の利便性をさらに高めていく。

今後もAIなどの新技術を活用した事務手続きの簡素化・標準化をすすめ、Web上で契約者自身が手続きを行うことのできるシステムなどを構築しながら、契約者の利便性向上を図るとともに、契約者対応力のさらなる強化を目指していく。



<ペーパーレス化等による事務負荷軽減の取組み状況>



(7) J A 鳥取県中央会の取り組み

J A 鳥取連合会役職員連盟で『コロナ対策応援キャンペーン』を実施

現在のコロナ禍において J A グループ鳥取では、「県産品消費拡大運動」「鳥取県農畜産消費拡大キャンペーン」等、様々な企画で経済活動への協力を呼び掛けている。

こうした状況の中、この県下の運動に呼応して、J A 鳥取連合会役職員連盟として出来ることを協議し、『コロナ対策応援キャンペーン』として、連合会職連の盟友に J A グループ鳥取系統の飲食店（ホテルモナーク鳥取・食のみやこ鳥取「大国亭」）で使用できる食事券（1人あたり2,000円分）を配布した。令和2年10月1日～10月31日の期間内、積極的に利用し系統飲食店を応援していく。